

## I 組織の使命

道南唯一の重要港湾である「函館港」については、南北海道における物流および商業・経済の拠点となっていることから、その役割を果たすため、時代に即した整備と運営を図ります。

なかでも、近年頻発化・激甚化する災害時に港湾が果たす役割や、2050年ゼロカーボンを達成するための臨港地区のあり方を見据えた港の形成を目指します。

「樞法華港」については、地域の防災に重要な役割を担っていることから、引き続き港の維持向上に努めます。

本市の総合交通体系の一翼を担い、地域経済・文化交流を図るうえで重要な「函館空港」については、国内外からの航空路線の充実・拡大を図り、航空需要に対応した施設の整備を促進するとともに、空港周辺地域住民の生活安定および福祉の向上に寄与するために、空港周辺の環境整備に努めます。

## II 組織の基本方針

- 函館港については、脱炭素化の推進等を図るため、港湾脱炭素化推進計画の進捗管理を行うとともに、国際観光・交流拠点の創造、豊かで活力ある地域社会と経済環境の創造などの多様な要請に対処するため、「賑わいと親しみあふれる活力ある函館港」を目指し、平成17年(2005年)に改訂した港湾計画等に基づき、弁天地区の港湾機能や緑地の整備、賑わいと魅力ある港湾空間の形成、既存施設の改良・補修などを進めます。

また、クルーズ船のさらなる寄港数の増加に向けて、誘致や受入体制の強化を図るほか、コンテナヤードのさらなる活用に向けて関係機関と協議を進めます。

- 函館空港については、国内外の航空路線の拡充を図るため、新規就航や増便に向けた誘致活動を展開するほか、C I Qやグランドハンドリングの体制強化に向けて、関係機関との連携を図ります。

## III 主要施策・事務事業

### 1 CNP（カーボンニュートラルポート）の形成およびGX（グリーントランスフォーメーション）の推進

- (1) カーボンニュートラルを目指す港湾

港湾における脱炭素化の推進等を図るため、函館港港湾脱炭素化推進計画の進捗管理を行うほか、官民共同で脱炭素に向けた情報発信を行います。

- (2) 海洋再生可能エネルギーの導入促進に貢献する港湾

洋上風力発電建設工事等に係る港の利用促進を図ります。

### 2 クルーズ客船の誘致

- (1) クルーズ船の誘致強化と受入体制の拡充

函館港の満足度を高め、さらなる寄港数の増加を図るため、他港や近隣自治体と連携を強化し、船社やツアー造成会社へのプロモーションを実施するとともに、寄港数増加に対応できる受入体制の構築に向けて、C I Qの体制強化に係る要望活動を行うほか、令和9年度(2027年度)からのクルーズターミナル管理の指定管理者制度やクルーズターミナル使用料の導入を進めます。

### 3 港町ふ頭コンテナヤードの活用強化

#### (1) コンテナヤードの利用拡充

関係団体との連携によるポートセールスにより、圏域における潜在荷主の発掘を強化し、貨物やコンテナ航路の利用拡大を図るため検討、協議を進めます。

### 4 港湾機能および空港機能の充実

#### (1) 弁天地区の港湾機能および緑地整備

国際水産・海洋都市構想の拠点として、調査船や練習船等が利用する岸壁の整備、港湾環境の改善を図るための緑地整備を実施します。

#### (2) 賑わいと魅力ある港湾空間の形成

大町地区の賑わいと魅力ある港湾空間の形成を図るため、老朽化により利用者の利便性・安全性の低下した緑地を整備します。

#### (3) 既存施設の改良・補修等

既存施設の機能の維持・延命化を図るため、西防波堤の改良、西ふ頭地区の岸壁改良、本港地区の道路改良、中央ふ頭地区の橋梁補修などを行います。

#### (4) 榎法華港の機能向上

護岸の防波機能が不足しており、越波による漁船への被害が多発している現状にあることから、越波対策を目的とした防波護岸の改良を行います。

#### (5) 国内外の航空路線の拡充

新規就航や増便に向けた誘致活動を行うほか、路線の利用拡大等に繋がるPR事業を実施します。

また、増便に向けた受入体制を拡充するため、C I Qの体制強化に係る要望活動を行うほか、グラウンドハンドリングの体制強化について関係機関と連携を図ります。